



真宗大谷派 存明寺通信

No.214

2023年(仏歴2554年) 7月8日



この春、新型コロナウイルスの位置づけが「5類」に移行し、すべてのことがらが元に戻る、「回復」の時期に入れた感がある。そのような時に次の言葉に出会った。ハッとした。

回復

新たなものを生み出す
ということがなければ

回復ということにはならない

(二階堂行寿・大谷派僧侶)

単に昔に戻るというだけでは回復ということにはならない、というのである。新たなものを生み出すとは、一体どのようなことをいうのだろう。

今思うことは、一つひとつの具体的なことがらに対して、いかに「丁寧(ていねい)」に取り組めるか、ということではないだろうか。

それが、たとえ新たな感染症が流行(はやり)しても、けつして崩(たふ)されはしない確かな(きずな)絆(きずな)となることを感じている。

(住職)

存明寺のHP <https://zonmyoji.jp>

存明寺 Instagram と HP 定期的に更新中!

お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。

↓ インスタ ↓

↓ 存明寺 HP ↓



親鸞 ゆさぶる言葉

凡夫とてな
無明煩惱わらわら
みにみちみちて
欲もおおくいかり
はらだちらそねみ
ねたむころおおく
臨終の一念に
とどみらば
きえずたえず

『一念多念文意』より

コロナの感染拡大が始まってから、蓮を育てるようになった。早春に荒木田土という粘着性の強い土を鉢に入れ、そこに蓮の苗を植え付ける。やがて初夏、蓮はピンク色の見事な花を次々と咲かせてくれる。

經典には、蓮は高原の清らかな場所では咲かず、ドロドロの淤泥にこそ花を咲かせる、とある。泥でも咲くというのではない。泥でなければ咲かないというのだ。ここは大事なところだ。

泥とはいったい何か。親鸞聖人は様々な言葉でそのことを言い当てておられる。

凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず

我々が抱くたくさんの欲、怒ったり、そねんだり、ねたんだり。次々と湧きいずる泥のようなころ。そのような泥を無駄にはせず、その泥だからこそ、さとりの花開く世界があることを、蓮は私に教えてくれている。

泥から出て泥に染まらぬ蓮の花に、泥だからこそ花開く、仏さまの世界のうつくしさを憶う。



著・文 酒井義一 ● さかいよしがす
1949年東京生まれ、東京大学名誉教授

死と生を 見つめて 第3部

グリーンフケア ⑥

グリーンフケア(悲嘆)の最前線にある寺院や葬儀場が、遺族に寄り添う取り組みを続けている。

3月の雨の日、東京都世田谷区の存明寺に新型コロナウイルスで弟を亡くした兄、息子を自殺で亡くした母親ら遺族6人が集まった。庭園に面した客間で車座になって酒井義一住職(63)の法話を聞いた後、悲嘆や後悔の思いを語り合った。同寺は季節ごとの年4回、遺族向けにグリーンフケアのつどいを開く。サイトから匿名で応募でき、参加者の半数が檀家以外。全国から訪れる。

「悲しみを分かち合う場所に感謝」「仲間がいたから、少しづつ前を向いて歩ける」。参加者は最後に様々な感想を紙につづる。2007年から始めたつどいは61回を数え、延べ約9000人が参加した。仲間と笑い、寺を後にする。そんな光景に酒井さんは「雨上がりの虹のよう。悲しみを抱く人が出会い共感できる。お寺を温かな居場所にした」。

寺・葬儀場 癒やしの場に



👉 読売新聞に存明寺の活動「グリーンフケアのつどい」が紹介されました

グリーンフケアのつどい

▼2007年から始まった「グリーンフケアのつどい」は、大切な方を亡くした人々が集まる、分かち合いのつどいです。仏さまの前で勤行(読経)し、法話をお聞きいただき、それぞれの歩みや感じていることを語り合い、最後に音楽の鑑賞を行なっています。

▼テーマは、悲しみや別離や生き辛さ。それらをなくすことに重きを置くのではなく、語りあい・聞きあうことに重きを置いています。その中で人と人が共感・共鳴する世界が、静かに広がっていきま

す。
▼前回(6月)の参加者は16名と、コロナ以降最多となりました。直前に読売新聞で紹介された影響もあって、初めての方が7人おられました。当日のひとことコメントより。

- ・ 亡き人のことを話す場、涙する場が私には必要です。
- ・ 母への思いを語ることが出来て、とてもうれしく思います。
- ・ このような場は得難い。本日も

有難うございました。

・ 人の痛みを分かり合える、素敵なお会だと思えます。

・ 今までも他のグリーンフケアに参加したことがありましたが、今日ほどやさしい気持ちに包まれたことはありませんでした。

・ 人の悲しみや苦しみを聞いて一緒に生きていこう、グリーンフケアの原点ですね。

・ 誰もが苦悩を抱いている。それが仏縁となり、歩みが始まるのだと。

グリーンフケアのつどいは9月・12月(4頁参照)に開催します。

法名・釋〇〇が授与されます。

3年に1度の 帰敬式

日時 2023年12月2日(土)

10時半~13時半

場所 真宗大谷派 存明寺

費用 30,000円

※受式者を募集中です。

※申込者は只今10名です。

※締切りは11月3日です。

お寺のひろば 2023年(令和5年)

2023年 11月の予定

8月26日(土) 午後 青年のつどい
今年はお試し実施 存明寺夏まつり

9月9日(土) 14時 樹心の会

お話：桂直美さん&酒井義一住職

9月15日(金) 13時 おそうじの日

内容：庭木の剪定・掃き掃除

9月23日(土) 11時と13時 秋のお彼岸法要

お話：関口昌雄さん&岸木勉さん&酒井住職

9月30日(土) 14時 グリーフケアのつどい

内容：勤行・法話・語り合い・音楽鑑賞

10月14日(土) 14時 樹心の会

お話：加藤京子さん&酒井義一住職

10月25日(水) 10時 おみがきのつどい

報恩講に向けて仏具のおみがきと清掃

11月2日(木) 14時 報恩講のゆうべ

3日(金) 10時 報恩講法要

お話：澤面宣了さん(長浜教区・浄願寺)

感話：井上憲司さん&渡辺一真さん

内容：報恩講法要・法話・交流会

11月11日(土) 14時 樹心の会

お話：藤井俊五さん&藤井良子さん&酒井住職

12月2日(土) 10時半 帰敬式

12月9日(土) 14時 樹心の会

お話：高橋昭彦さん&酒井義一住職

12月16日(土) 14時 グリーフケアのつどい

1月1日(月) 10時 修正会

1)どいも会・1)どいも食堂・子育てサロン・聖典
輪読会も、順調に開催中です。

報恩講法要 通常に戻して開催します

日時 2023年11月2日(木) 2時〜

11月3日(金) 10時〜

場所 真宗大谷派 存明寺

法話 澤面宣了さん(長浜教区浄願寺)

感話 井上憲司さん2日・渡辺一真さん3日

2日 報恩講法要・記念法話・囲む会

3日 記念法話・報恩講法要・交流会

※コロナ前の姿に戻した4年ぶりの報恩講。
※久しぶりの任職方とご門徒衆の同朋唱和。
※澤面宣了さんによる法話、楽しみです。



【あとかぎ】

▼コロナの感染拡大で長いこと開催を見合わせておりました存明寺の総代世話人会ですが、去る6月におよそ3年半ぶりに開かれ、お寺のこれからの活動が話し合われました。

▼その席で正式にここ存明寺でも慶讃法要をお勤めすることが決まりました。慶讃法要とは、親鸞聖人が誕生されて850年・浄土真宗が出来て(立教開宗)800年という記念すべき法要のことです。合言葉は、「やります、慶讃法要、ここ存明寺で」。時期はまだ正式決定はしていませんが、最短で2026年秋、または2027年の春か秋の予定。コロナの感染状況を見極めて、いずれ決定されます。

▼まさにコロナからの再生です。その動きを「丁寧な、ていねいに」。さらに、「あきらめず、けつしてあきらめず」。そしてさらに、「教えに出遇う、この私が出遇う」そのことを大切にしながら歩んでいきたいものです。だから、まだしばらくは「慶讃法要中」なのです。

義

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp